

## 図画工作部

部長 斉藤 進一（笹岡小）

研究テーマ 子どもの表現力を高める指導のあり方

### 1 はじめに

新学習指導要領の教科目標に「感性」という文言が加わり、表現や鑑賞を貫く〔共通事項〕が新設された。そこで、当市小教研図画工作部では、子どもの自由な発想を妨げず、表現意欲を途切れさせることなく表現力を高めていくための教師の役割を学習し合い、授業に役立てていけるようになることをねらい、研究テーマを設定して研修を行った。

### 2 研究の概要

4月21日（木） 組織の構成・役割分担、事業計画立案

6月 8日（水） 「こんな見方、あんな見方」

ギャラリートーク 講師：宮下 東子 先生（県立万代島美術館学芸員）

11月29日（火） 「生きることとつくること」

講話 講師：青木 善治 先生（笹岡小）

実技講習 講師：吉田 直彦 先生（京ヶ瀬小）

### 3 研究の実際

#### (1) 「こんな見方、あんな見方」(会場：水原小学校 図工室)

新潟県万代島美術館学芸員の宮下東子先生をお招きし、「ギャラリートーク」を通して鑑賞指導の実技研修を行い、鑑賞をとらえ直す機会とした。

対話型鑑賞（ギャラリートーク）とは、目の前の作品について、「見たこと」「感じたこと」などをナビゲーターのリードによって話し合い、話を深めていく方法である。この活動により、他人の意見を聞き、話し合うことによって、他人を認め、想像力が広がり、鑑賞を深め、また言語能力の育成も期待できるものであることが実感できた。



#### (2) 「生きることとつくること」(会場：水原小学校 図工室)

同部員である青木善治先生（笹岡小）と吉田直彦先生（京ヶ瀬小）から講話と実技指導をしていただいた。

青木善治先生の講話から、子どもたち一人一人が自分の表現ができるようにすることが、私たち大人の大きな課題であり、そのためには、教師自身の見方や感じ方をとらえ直すことが必要であることを教えていただいた。



吉田直彦先生のステンシル技法の工夫を実技指導していただいたことから、造形環境の提示（可視造形環境・不可視造形環境）の大切さを教えていただいた。

### 4 おわりに

今年度の研修を通して、子どもと大人（教師）の見方・感じ方にずれがあることを実感した。そして、もっと、子どもの世界が見える教師になりたいと思う気持ちが高まった。